

「こおりやまの米」通信

令和8年8月

編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)

NOSAI福島中央支所 (TEL. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市農業生産流通課 TEL. 024-924-3761)



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」



毎月8日は『こおりやま「お米の日」』
豊かな自然と気候に恵まれた、県内一の
米どころである郡山の美味しいお米を
食べましょう！

Vol.5 適期刈り取り特集

こおりやまの米通信

検索



* 最新および過去の記事は、郡山市ウェブサイトから見るすることができます。

1 生育状況

7月以降の気温が昨年より低く、おおむね平年並みで推移し、出穂期は平年並みか、平年よりやや遅くなりました。
出穂以降、8月は曇天傾向ですが、9月以降の天気と気温の推移を確認しながら、収穫作業を適期に実施できるよう、農機具の点検等の準備を進めてください。

なお、最新の積算気温を基にした刈り取り適期については、9月初めに発行予定の「生育状況速報」でもお知らせしますので、参考にしてください。

(表) 出穂後の積算気温による刈り取り始めから刈り取り終期の目安

地域	主な品種の出穂期		出穂から8月24日までの積算気温(℃)	各積算気温の到達予想日			
				950℃	1000℃	1050℃	1200℃
				刈り取り始めの目安			刈り取り終期の目安
平坦部	7月31日	ひとめぼれ	614	9月8日	—	—	9月19日
	8月4日	天のつぶ	521	—	9月15日	—	9月24日
	8月11日	コシヒカリ	343	—	9月24日	9月27日	10月4日
湖南	7月27日	あきたこまち	665	9月7日	—	—	9月19日
	8月1日	里山のつぶ	556	9月12日	—	—	9月25日

※ 「各積算気温の到達予想日」は、8月24日までの実測値、それ以降は平年値で算出。

なお、平坦部はアメダス郡山、湖南はアメダス猪苗代のデータで算出。

※ 上記の到達予想日は目安です。必ずほ場を確認し適期収穫に努めてください。

2 適期刈り取り

【刈り取り時期が早いと・・・】

- ・作業能率が悪い
- ・未熟粒、死米が多くなる
- ・燃料使用量が増加する

【刈り取り時期が遅いと・・・】

- ・胴割米、着色米が増加する
- ・光沢がなくなり品質が低下する



(1) 出穂後の積算気温による方法

出穂期からの日平均気温を積算し、刈り取り適期を推定できます。

高温条件下では積算気温による予想より籾の黄化が早まるので、籾や枝梗の黄化状況で判断してください。

(2) 穂の黄化状況から見た適期

ほ場全体を見渡して平均的な株の穂の黄化程度を観察し、籾の80～90%が黄化し、穂軸の半分程度が黄化した時期が刈り取り始期です。また、刈り取り晩限は胴割米や着色米等の混入を防ぐため、積算気温1200°Cを目安とします。今年は、今後も気温が高い予報となっています。気温が高い条件での刈り遅れは、胴割米等の増加につながりますので、積算気温1200°C到達前に収穫を終わらせるように注意してください。

刈り取り面積が多い方は、刈り取り適期になったら速やかに収穫を始め、適期内での収穫完了に努めてください。ほ場による地力の違い等から黄化程度が違うので、収穫間際になったらほ場ごとに確認してください。

飼料用米の検査では、胴割米や着色米の基準がないので、できるだけ刈り取りを遅らせると(立毛乾燥)、乾燥用の燃料使用量を削減することができます。

※ほ場内での生育ムラにより倒伏した箇所や熟期の遅い箇所を一度に収穫・調製すると、収穫物全体の品質を落とすことになります。状況に応じて刈り分けてください。

こおりやま農業用LINE
友だち登録をお願いします。

郡山市公式農業用LINE「Agri Connectこおりやま」では「こおりやまの米」通信の他、補助金やセミナー、気象や病害虫に関する情報を発信していきますので、ぜひ友達登録をお願いします。

LINE ID:
@511mzsqp



<友達登録QRコード>

登録後の表示例

一般メニュー

農業者用メニュー



地域計画「協議の場」



補助金情報



農家経営・新規就農者
サポート窓口



こおりやま米通信



農政だより



農地貸借等申請

「農業者用メニュー」からいつでもスマホで「米通信」が確認できます。過去の配信も見返すことが可能です。

Topics

【秋の農作業安全確認運動】

重点推進期間中(9月1日～10月31日)
徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

- ①作業前の機械点検・整備
- ②事前に危険箇所がないか周辺環境を確認
- ③トラクター運転時はシートベルトを必ず着用
- ④機械の点検・清掃時等はエンジンを止めて作業
- ⑤コンバインでの収穫時、わら・粃の詰まりが発生した際は、必ずエンジンを止めてから対処
- ⑥コンバインの運搬車への積み下ろしは慎重に
- ⑦9月の残暑での熱中症に注意

令和8年産米の モニタリング検査について

令和8年産米は郡山市内で1点のモニタリング検査を実施します。令和6年度から旧市町村ごとではなく市内全域での出荷制限解除となっていますので、モニタリングが終了するまで販売を行わないでください。なお、JAや米集荷業者への出荷はモニタリング検査終了前でも可能です。

モニタリングの実施状況は福島県水田畑作課のホームページで確認することができます。

土やゴミ等の異物混入による基準値超過を防ぐため米の調製作業時は作業場や乾燥・調製機械の清掃等、異物混入防止策の徹底をお願いいたします。



<水田畑作課のHP>

農薬のボトル等の 適正処理のお願い

農薬のボトル等の農業用使用済プラスチック類は「産業廃棄物」となるため、ごみ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

JA福島さくらでは11月に回収処理を代行しておりますので、詳しくはお近くのJA支店へお問い合わせください。



ガス湧き予防対策に秋耕を

近年、田植後のガス湧きによる生育不良が問題になっています。ガスの発生がひどかったほ場では、予防策として収穫後すみやかに稲わらのすきこみをしてください。

すきこみが遅れるほど地温の低下により分解が遅れます。

また、表面付近は地温が高く分解が活発となるので、すきこみは浅めに行ってください。その際に稲わら腐熟促進剤(ワラ分解キング等)を使用すると、稲わらの分解が促進されます。

道路に泥を落とさないよう注意

公道に出る際は、機械についた泥などを落としてから走行してください。

田んぼでの野焼きに注意

稲わらは、野焼きせずに、すき込みし、土づくりにご活用ください。

農薬の適正使用の徹底

使用前にラベルの作物名・使用方法を必ず確認してください。